

大学土木教育委員会の発足

委員長 米 屋 秀 三

人工衛星を飛ばし、原子核エネルギーの解放をなしとげたわれわれ人類にとって、自然の法則を利用し、さらに新たなより良き世界を形成していくことは当然の使命であり、このような中に人類の幸福と発展のひとつの道があります。

このようなことが活発に行ないうる現代において、われわれ土木技術者がなすべきことは何でありましょうか。それは一口にいえば、自然と社会の対比の中で、社会を集団としてとらえ、これを自然の暴威から守り、全体の発展に必要な装備を着実にこなすことの中にあります。このようなことをなしとげるためのわれわれの道具には橋梁・ダム・鉄道・道路等を始めとする一連の構造物があります。この構造物を利用してわれわれ土木技術者は、社会に電力・水等の資源を供給し、交通を実現し、社会を災害から守るのであります。

この土木技術者に課せられた役割りを果たすためには、構造物を利用し

て社会をささえる国土の基本計画を立てる国土計画・地方計画・都市計画などの企画部門と、構造物の特性を調べこれを設計する設計部門と、これら構造物を具体的に実現する施工部門の協力が必要であり、これが土木技術における大支柱であります。このような各部門のバランスを保ち、健やかな成長を計ることはわれわれ現在の土木技術者にとって当然の責任であるといえましょう。

大学土木教育委員会は、このような目的を達するために設立され、7月10日の第1回委員会をもって発足致しました。本委員会の具体的事業としては、まず第一に、ともすれば不明確になりがちな土木工学および土木技術者のあるべく姿を、土木技術者が現在社会の中で占めている位置と、学門の類概念の中から明らかにし、これを社会に衆知させることによって優秀な人材を集め、これに最高の教育を与えることによって、土木技術界の将来の発展を計り、社会に対する貢献をすることにありま

す。

現代の土木教育においてはまた、科学技術の進歩に応じた技術者を養成するという質の問題と、社会の進歩に応じた国土の改造を速に行なうに十分な土木技術者を供給するという量的問題があります。この問題に対しては、さきに述べた土木技術者の役割りと構成の検討を通じて、一般技術者の養成を行なう全国各大学土木系学科の教科内容を設備と改善・充実を計る一方、これら技術者の相談にあずかり後輩の指導を行なう高級技術者の養成機関として設けられている大学院修士課程および指導的技術者の養成機関である大学院博士課程のより一層の充実を行なっていく予定であります。

以上のごとき本委員会の役割りと将来におよぼす影響の重大性を鑑み、ここに広く全会員のご協力をお願い致しますとともに、ご意見をどうかお願い致します。

大学土木教育委員会委員名簿

委員長	米 屋 秀 三	委員	齋 藤 義 治	委員	田 中 茂	委員	吉 越 盛 次
委員	荒 井 利一郎	委員	堺 毅	委員	友 永 和 夫	委員	和 仁 達 美
	網 千 寿 夫		左 合 正 雄		林 泰 造	幹 事	佐 藤 吉 彦
	石 原 藤次郎		佐 藤 清 一		堀 岡 正 巳		久 武 啓 祐
	岩 崎 敏 夫		嶋 祐 之*		堀 岡 武 男		丹 羽 義 次
	上 田 明		白 石 俊 多		真 井 耕 象		林 茂 樹
	内 田 一 郎		扇 田 彦 一		三 野 耕 象		増 岡 康 治
	加 納 治 郎		武 内 修		最 上 武 雄		* 印は幹事長
	清 山 信 二		竹 下 春 見		森		
	栗 栖 義 明						